

# 国語 授業づくり講座

## In 安田町立安田小学校

授業をアップデート！  
生きて働く学びを創る！

東部管内の  
講座情報  
https://www.pref.kochi.jp/sochi/19/koshiki/31  
prof.kochi.jp/sochi/19/0050

令和5年12月発行  
東部教育事務所



本事業では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員を育成することを目指します。

国語科のコンセプトは、資質・能力の育成に向けた①言葉による見方・考え方を働かせる明示的指導の工夫、②子どもが学びの主体となる言語活動の創意工夫です。今回は、安田町立安田小学校での学びの様子をお知らせします。

### 学校提案

学年：第3学年  
 単元名：「パラリンピックについて調べよう」  
 学習材：「パラリンピックが目指すもの」(東京書籍)  
 重点指導事項：C 読むこと  
 (1)ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。  
 言語活動：2年生に伝えるために、自分の伝えたいパラリンピックスポーツについて要約し、解説文とクイズを作成する。



授業者  
間城 和哉 教諭

### 教材研究会 8月31日

#### 模擬授業後の協議より

- ・本時において、要約する箇所の「大事な文」とはどのようなところかを捉えることが必要ではないか。
- ・言語活動が付けたい力に合っているのか。言語活動を見直す必要があるのではないか。
- ・「パラリンピック」について、3年生が伝えたいと思ったり、2年生が読みたいと思ったりできるような工夫等が必要ではないか。

④パラリンピックとは何かについて分かりやすく要約する。(本時)  
 ・「パラリンピックとは何か」について、中心となる語や文を見付けて要約する。【思・判・表C(1)ウ】

つかむ【1時間】	取り組む【10時間】	振り返る【1時間】
① 学習課題を確かめ、単元の学習の見通しを立てる。 ・パラリンピックに関心をもたせるために単元の導入は、オリンピック・パラリンピックに関するクイズ出し、学習への意欲を高める。 ・要約するという学習課題を確認する。 ・パラリンピッククイズ・解説文の見本を提示して、学習の見通しをもつ。 ・「相手意識」「目的意識」を明確にする。	② ④パラリンピックについて調べながら、「はじめ」「中」「終わり」の構成を押さえる。 ・例について書かれているか、大体を捉える。 ・筆者がいかに伝えたいことは何かを捉える。【思・判・表C(1)ウ】 ③ 「パラリンピックとは何か」について、中心となる語や文を見付けて要約する。【本時】 ④ 「パラリンピックとは何か」について、中心となる語や文を見付けて要約する。【思・判・表C(1)ウ】 ⑤ 「パラリンピックについて自分が伝えたいことを調べるために、要約する時に気をつけることを基に「水泳」について分かりやすく要約する。 ・「水泳」について、種目、ルール、競技方法の3つの観点に分けてまとめる。【思・判・表C(1)ウ】 ⑥ 「パラリンピックについて自分が伝えたいことを調べるために、要約する時に気をつけることを基に「ボッチャ」について分かりやすく要約する。 ・「ボッチャ」について、種目、ルール、競技方法の3つの観点に分けてまとめる。 ⑦ ⑧パラリンピックの例について要約するのを明確にして、相手意識をもって本や資料から、必要な情報を集める。 ・必要な語句の書き留め方や出典の示し方を理解して、分からない言葉は辞書や事典で調べる。【知・技(2)イ】 ・必要な情報を整理しまとめる。 ⑨ 集めた情報を基に、自分の伝えたいパラリンピックについての解説文とクイズを作る。 ・2年生に分かる言葉や文を考えながら要約する。 ・要約した内容を解説文とクイズにまとめる。【主】 ⑩ 自分の伝えたいパラリンピックについての解説文とクイズを共有する。 ・グループで解説文とクイズを読み合い、2年生に分かりやすくなっているかを見直す。【思・判・表C(1)ウ】 ⑪ パラリンピッククイズと解説文を2年生に紹介する。 ・パラリンピッククイズと解説文を2年生に発表し、見付けを交換する。	・文章を要約するために、どのようなことに気をつけたか確かめ、学習を振り返る。 ・本単元の目標に即して、できるようにまとめたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて書く。

・並行読書を行うなかで、パラリンピックの例について伝えたいのかを考えておく。

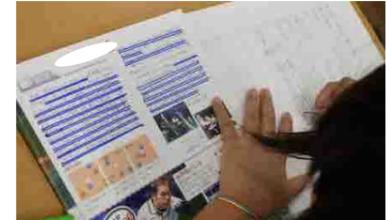
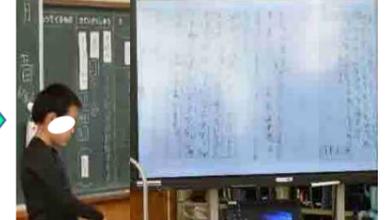
### 授業研究会 10月13日

教材研究会を受けて変更した点  
 ・付けたい資質・能力との関係を捉え直し、言語活動を「自分の選んだパラリンピックスポーツのカードを作成しよう」に変更した。  
 また、単元の指導計画も見直し修正を行った。  
 ・本時を6時間目に変更した。

構造と内容の把握	精査・解釈(教材文・関連図書)	考えの形成、共有
・内容の大体を捉え、筆者の考えを読み取る力 ① 学習の見直しをもち、内容の大体を捉える。 ・自分の伝えたいパラリンピックについて、カードに分かりやすくまとめ2年生に伝えるというゴールを示し、単元の学習の見直しをもつ。 ・パラリンピックカードの見本を提示して、学習の見直しをもたせる。 ・「パラリンピックが目指すもの」を読み、文章の組み立てを捉える。 ・筆者の考えが書かれている段落に気付き、文章全体を「はじめ」「中」「終わり」に分ける。	・文章を読み、中心となる語や文を見付けて要約する力 ②③ 「中」に書かれている、「水泳」「ボッチャ」について要約する。【思考・判断・表現C(1)ウ】 ・「終わり」の筆者の考えを整理し、「水泳」「ボッチャ」のルールや工夫について、要約する。 ④⑤ 自分の伝えたいパラリンピックについて、図書資料を使って調べる。 ・図書資料を読み、大体を捉え、自分の伝えたいことに必要な語や文に線を引く。 ・必要な語句の書き留め方や出典の示し方を理解して、分からない言葉は辞書や事典で調べる。 ・線を引いた箇所をワークシートに整理してまとめる。【主体的に学習に取り組む態度】 ⑥ 自分の伝えたいパラリンピックについて伝えるために、必要な語や文を見付け、要約する。(本時) 【思考・判断・表現C(1)ウ】	・友達の考えを基に自分の考えを再構築することができるようになったことに気付く力 ⑦ パラリンピックカードを他グループと共有する。 ・グループごとにカードを読み合い、伝えたいことが伝わるか、分かりやすいところや自分のカードに取り入れたことについて伝え合う。【思考・判断・表現C(1)カ】 ⑧ 単元全体の学習を振り返る。

**本時**

本時の目標：自分の選んだパラリンピックについて、必要な言葉や文を選んで要約することができる。

個人思考	中間指導	同じパラリンピックを選んだグループでの話し合い
 <p>前時で線を引いた箇所から、中心となる言葉や文章を選び内容をワークシートに要約していた。</p>	 <p>発表の視点を共有することで、要約することができていない児童への手立てとなっていた。</p>	 <p>それぞれが要約したものが違っていたので、資料に戻り、中心となる言葉や文章についての見直しをしていた。</p>

### ココが大切!

言葉による見方・考え方を働かせる  
 中心となる言葉や文章を捉え、要約してまとめるときには、書かれている文章からどの言葉や文が必要か、その言葉や文で相手に伝わるのかということを常に目的(本単元では自分の選んだパラリンピックのルールや歴史等)に戻って児童に考えさせることが大切だ。

### 1人1台端末の活用

図書資料を読んで、内容や言葉の意味が分かりにくい児童は、パラリンピックの動画を見ることで、資料の読み取りの理解につなげていた。



### ～参加者リフレクションより～

- 付けたい資質・能力を児童の姿で明確にし、その姿が達成される授業にするために、児童の意識の中に明確な視点(目指すもの)をもたせることが大切だと思った。
- 内容ベースの授業づくりから脱却し、資質・能力ベースの授業づくりができるようにする。そのためにも、学習指導要領の内容をしっかりと把握するとともに、児童の実態に応じ、かつ児童のエネルギーが持続する単元を設計できるように研究に励みたい。
- 単元づくりや授業のポイントを校内に伝達することで、自分の授業はもちろん、学校全体の取組の質を高められるようにしていきたい。

### 指導・助言 文部科学省 国立教育政策研究所 大塚 健太郎 教科調査官

#### 8月31日教材研究会講話より

#### ○単元で取り上げる指導事項の確認

国語科は、指導事項を2年間(低・中・高)で身に付けることになっている。また、1年間に同じ指導事項が何回か出てくる。そのため、年間指導計画で、本単元で学習する指導事項がどの学期にあたるのか、また何回目なのかを把握しておくことが大切である。そして、指導事項の中の何に軸足を置き、今回の単元を学習するのか確認したうえで単元づくりを行っていくことが重要である。今回であれば、要約することは児童にとって初めてのことなので、指導事項のどこまでを身に付けさせるのか、また、次の単元や次学年ではどうつながるのかについて螺旋的・反復的に計画を考えていく必要がある。

#### ○児童が主体的に取り組むようになる課題

教師がやりたい、教師がやらせたい課題ではなく、児童が本当にやりたいと思える課題となっているのかについて考える必要がある。場合によっては、児童にどのようなことをしたいか、どのような伝え方をしたいか等を聞いてみることも考えられる。また、他教科等での取組を視野に入れて課題を考えていくことも大切である。

#### ○付けたい資質・能力が達成された児童の姿を明確にもつ

学習指導要領に示されている指導事項が具体的に児童のどのような姿であるのかを明確にしておく。本単元ならば、目的を意識したうえで、中心となるのはどの言葉や文になるのかを想定しておき、1人1人が要約できるのか、ということ把握しておくことが大切である。



### 各校で取り組んでいただきたいこと

- ・資質・能力が身に付いた単元末の児童の姿を具体的にもったうえで単元づくりを行う。
- ・言語活動を考える際に、付けたい資質・能力が本当に身に付くのかについて、検討したり吟味したりする。